

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮



平成 25 年 (2013)
御鎮座 950 年祭

平成 24 年 (2012)

平成 24 年 わかば祭り (春の大祭) 号【第 93 号】

<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>

主な目次

日本の神話に民族再生・甦りの力あり…	2 頁
わかば祭り (春の大祭) のご案内…	3 頁
大宮八幡宮氏子青年会結成…	5 頁
杜の話題…	6 頁
大宮八幡の杜 春から夏へ…	8 頁
初宮詣芳名・どんぐり通信…	10 頁
わかば祭り社頭風景…	12 頁



今年は、いつもより桜の開花が遅い中で、ご社殿の側の大宮桜（冬桜）が例年になく満開で見事に咲いています。例年ですと10月の半ばに葉を落し始めると咲き初め、初詣の頃は見頃で参拝者を楽しませ、葉の新芽が出る頃まで凡そ5ヶ月間ロングランで咲き続けているのですが、それがどうした事か今年は花に勢いがなく只咲いている感じがでありました。それが春の彼岸を過ぎると俄然活気づき、素晴らしく、見事に咲き誇り参拝者の眼を楽しませ、心を和め癒しているのです。

昨年の大震災より早くも1年が経過し3月11日が巡って参りました。

当宮では昨年の3月20日に東日本大震災復興祈願祭を斎行以来、連日、朝の日供祭の朝拝時に職員と俱に一日も速い復興を祈り、更に防災の日の9月1日に鎮災復興祈願祭（臨時祭）を斎行して復興祈願を続けて参りました。

当日の朝拝でも大祓詞三巻を奏上して改めて犠牲になられた方々の鎮魂と慰霊と、被災地の復興を祈願し、更に午後2時46分には太鼓の鳴り響く中、参拝者の方々と一緒に1分間の黙祷を捧げさせて頂きました。そうして15日には改めて一年目の東日本大震災復興祈願祭を参列者の方々と一緒に大祓詞（一巻）を奏上して斎行し、その後も連日祈り続けて頂いているところです。

今年5月のわかば祭り（春の大祭）も昨年の春秋大祭と同様に東日本大震災復興祈願としてご奉仕させて頂きます。

さて、明平成25年は、当宮も御鎮座九五〇年式年大祭を迎えます。

神宮でも明年の第六十二回神宮式年遷宮に向け、この程立柱祭、上棟祭も済まされ諸事順調に進捗されている由承っております。



重要な意義深い大切な明年の前年に当る今年の春、氏子地域役員総代の皆様のご協議により奉賛会が発足致しました。

日本の油話に

民族再生・甦りの力あり

宮司 鎌日 紀彦

また大切な今年は古事記編纂（撰上）一三〇〇年にも当たります。

壬申の乱（672）を経て律令国家の基礎造りを進められる第40代天武天皇（672～688）が、各家区に伝わる帝紀と本辞（旧辞）を取捨選択して、ひとつのストーリーとして本来の日本の歴史にまとめ、正しく伝える為に稗田阿礼に誦習させられました。その天武帝崩御30年後の和銅4年（711）9月18日、天武帝の姪第43代元明天皇が太安萬侶（73没）に筆録を命じられ、和銅5年（712）正月28日稿成り奏上されたのが「古事記」であります。因に帝紀とは天皇の日継きで、天皇の歴史であり、本辞は旧辞、神話、伝説、昔話、物語であります。

上巻（天地の初めの物語、神代の物語、神話）中巻（初代神武天皇・第15代応神天皇）下巻（第16代仁徳天皇・第33代推古天皇）より成り立っています。

尚、「日本書紀」は漢文調で書かれた外交上の歴史書で同様の事例がいくつか列挙されています。古事記は、謂ゆる「やまとことば」で語られています。その「やまとことば」には、ことばに宿る不思議な力、即ち「言霊」があり、私共の祖先は信じて来ましたが、今も私共神職が神前で奏上している祝詞のことば、そのものであります。そうして心のふるさと神話の中には、甦り・再生の力が語られており、民族再生の力にもなります。

例えば有名な神話の「いなばの素戔嗚尊」を助けたオオナムチノカミ（大國主命）は、菟より「ヤカミヒメと結婚するのはオオナムチノカミだ」と云われ、その通りになりますが、ヤカミヒメに求婚していた異母兄弟の八十神等が嫉妬してさまざま迫害を企てます。しかし、その都度生き返り、やがて別の土地で試練に打ち勝つと云う「再生」の物語があります。他にもイザナギノカミやスサノオノカミコトの神話にも別の所に行き新しい力を得て成長していくと云う力強い甦り・再生、再出発の物語が描かれています。

又、古事記上の巻にはイザナギノカミとイザナミノカミ（二柱の男女神）が天ツ神より「この漂へる国を修め、理り固め成せ」との神勅を受けて天より降られ、天之御柱を立て結婚されます。そうして日本の島々や神々をお産みになることが語られています。天孫降臨の物語も天津神の使命を以て地上に降りて来られた神々が、今の皇室の御祖先であり、神話にルーツをもつご皇室を戴いている国柄が日本国なのです。

亦、歴史学者のアーノルド・J・トインビーは「民族の神話を学ばなかつた民族は例外なく滅んでいく」と名言を残しています。言霊の幸ふ「やまとことば」の古事記を原文で読んでみる機会でもあると思います。神話にも語られているように、「この漂へる国を修め理りて固め成す」ことを使命として天災、人災、天変地異、内憂外患、悲喜交際の混沌として漂っているような閉塞状態のこの国難の危機を皆で乗り越え、安心して住むことの出来る日本の国造りを目指して行きたいと思ひます。また、震災復興の原点も神話の力は民族再生・甦りの力と云う日本人の心に学び、しっかりとした「祈りの御柱」を打ち立て、確かなアイデンティティをもとに日本人の誇りと絆を大切に心の復興も合せて行かねばならないと、大切な大祭を前にして心を新たにしているところでございます。

（平成24・3・29記）



大宮桜（冬桜）

わかば祭り(春の大祭)



明平成25年は当宮が康平6年（一〇六三）、この地に御鎮座されてより九五〇年の式年に当たりますが、この佳年を前に八幡大神様の御神威の愈々の発揚を祈り、併せて昨年より引き続き東日本大震災復興を祈願して、**わかば祭り（春の大祭）**が5月3日より5日の間斎行されます。

3日は第二ノ儀こどもの祭り(稚児健康祈願祭)に続き、第34回稚児行列が行われ、可愛いお稚児さんや子供の太鼓山車が神社近隣を巡行、発足した当宮氏子青年会も初仕事として行列のお手伝いを行います。また4日には第二日ノ儀を奉仕、ついで第12回拳式者の集いや「若葉inおおみや」の奉納演奏が行われ、午後には境内大前で植樹祭が執り行われます。

そして5日午前にはわかば祭り**当日祭**、**尚武祭**が斎行され、皇室国家の安泰、五穀豊穡、震災復興また氏子崇敬者各位のご家業のご繁栄が祈念されます。

また4月29日「昭和の日」には**昭和祭**を斎行、昭和天皇のご聖徳をお称え申し上げるほか、期間中若葉青葉の溢れる境内で**植木市**や盆栽展などが開かれます。

激動の昭和
まれ、今日の我
が国に繁栄を
導いて下さつ
た昭和天皇の
ご聖徳に感謝
の誠を捧げる
べく、祭典が
厳粛に執り行
われます。



昭和祭斎行

陽光降り注ぐ参道に並べられた新緑の苗木や花々、園芸用品などを求め、多くの方々が訪れます。またこれら植木の他にも、露店なども出ております。ぜひ、ご参拝に併せてお立ち寄り下さい。



大宮八幡
植木市

わかば祭り祭典と奉納神賑行事
祭事

昭和祭
つっじ
4月29日

朔日祭並びに躑躅育木祭
5月1日

わかば祭り第一日ノ儀

この日の夕、一種男俊辰初原祭

第34回 雑見行列巡行

5月3日

わかば祭り第二ノ義

植樹祭（苗木受与先着二〇〇名）
5月4日

わかば祭り当日祭（尚武祭）
5月5日

わかば祭り 終了奉告祭（直会乃儀） 5月5日

第9回 大宮八番宮の上斎会
5月2日

第3回 茶道裏千家 伏茶代 5月9日

第1回 芝居屋の家南葵子 5月1日

神賑行事

春の弓道奉納射会

4月29日

古武道武技奉納 5月3日

第12回 若葉inおたみや
5月4日

第12回 挙式者の集い

杉立太鼓奉納演奏	5月4日
野点茶会(夏千家)	5月5日

野呂素全(夏三多)	5月5日
方南エイサ(踊り奉納)	5月5日

雅太鼓奉納演奏

5月5日

奉納献燈提灯
4月29日～5月20日

園児画展
4月29日～5月20日

みどりの会即売
4月29日・5月3日～5日

スカウトバサー
5月3日

大宮戸帳桶木市	5月3日(85日)
盆曳展示会・即売会	5月3日(85日)

盆菰屋分會	良分會	5月3日(5日)	5月3日(5日)
露店			

— 3 —

平成25年 御鎮座950年記念事業奉賛のお願い

緑豊かな、都心の杜に鎮まり氏子崇敬者の心の故郷であります当宮は、平成二十五年、御鎮座九五〇年式年の佳年を迎えます。

この意義ある式年の佳節に当たり、私共の遠い父祖の代より氏子の人々がその時々にご神恩に感謝しつつ、一つ心に赤誠を尽して営々と努力され、鎮守の杜に相応しくご社頭を整備して今に残して下さっている様に、私共も先人に見習い、これから続く子や孫の為にも意義ある記念事業を実施して、氏神信仰に受継がれて来た尊い伝統を次世代へ継承し、報恩感謝の真心を捧げて参りたいと念願致し、此度奉賛会を発足致しました。

つきましては式年大祭はもとより奉祝行事や、御鎮座九〇〇年以降の境内整備の集大成と位置付け、境内のバリアフリー化を中心に、記念の諸事業を進めて参りたく存じます。何分この重要な記念事業には相当高額な経費を要する見込みでありますので、二期に分けて計画させて頂きました。

時節柄洵に厳しい時ではありますが、何卒本事業が達成されますよう本会の志すところを十分ご賢察賜り、大宮・方南北・方南南・和田東・和田西・松ノ木の各六地区の氏子の皆様方を始め、崇敬者各位の格別のご篤志を仰ぎ絶大なるご奉賛を切に懇願申し上げる次第でございます。

平成二十四年吉辰

大宮八幡宮奉賛会

○御鎮座九五〇年式年大祭 平成25年5月5日(祝)

○記念事業の概要

第一期事業

- 一、御社殿向拝(北側)バリアフリー スロープ工事
- 一、御社殿向拝階段手摺り(南北) 増設バリアフリー整備
登り高欄(檜)及びクネット手摺り設置工事
- 一、表参道石階段手摺り(二之鳥居・二之鳥居)バリアフリー整備
高欄風手摺り(アルミ)及びクネット手摺り設置工事
- 一、御社殿内拝殿 御帳・外拝殿及び神門門帳の新調
- 一、表参道大幟ポール(二対)設置工事
- 一、南参道鳥居 扁額の補修工事
- 一、弓道場振武殿改修工事
- 一、結婚式場清涼殿 階段バリアフリー整備
階段クネット手摺り設置工事
- 一、結婚式場清涼殿 「亀の間」改修工事
- 一、結婚式場清涼殿 ロビー・階段カーペット張替工事
- 一、祭典費・記念品費・事務費等諸経費

合 計 九、九〇〇万円

第二期事業

- 一、結婚式場清涼殿バリアフリー整備
エレベーター設置工事
- 一、トイレ改修等バリアフリー付帯工事

合 計 五、四〇〇万円

総事業費 一億五三〇〇万円

ご奉賛金の勧募

一口(壹万円) 以上お願い致します。
尚、五口以上ご奉賛の方々は記念の石碑^{いしがみ}にお名前を刻し永久に保存させて頂きます。また、一口以上ご奉賛の方々は芳名板(板札)にて受付後、随時お名前を掲出させて頂きます。

但し、左記については各々手建立(奉納)を頂いた場合は各々にお名前を入れてさせて頂きます。
◎御社殿向拝階段登り高欄(檜・クネット手摺り設置工事(南北 各二六〇万円)
◎表参道石階段(二之鳥居・二之鳥居) 登り高欄(アルミ・クネット手摺り設置工事

◎表参道大幟ポール(二対) 設置工事(二五五万円)

(二之鳥居・二之鳥居 各〇〇〇万円)

大宮八幡宮氏子青年会結成

かねてより準備が進められていた大宮氏子青年会がこのほど結成され、去る2月26日、結成奉告祭、結成式が執り行われました。当日は来賓の平岩東京都神社庁長、鷹野全国氏子青年協議会会長を始め150人が出席。先ず午前10時より社殿にて結成奉告祭が斎行されたあと、午前11時30分より清涼殿にて結成式が開催されました。

次いで藤枝責任役員が座長となつて議事を進行。結成に至る経過報告と会則が発表された後、役員選出。井川邦夫会長以下役員が発表され、満場一致で選出されました。挨拶に立った井川会長は「氏青綱領の中に『和の心をもつてむつみ合い』とあるが、まさに氏子青年会こそ氏神様を中心とする地域・郷土の絆の役割を担う団体。明年には御鎮座九五〇年という大きな行事を迎えるが、このような素晴らしい歴史の中の一員になれることを大変幸せに思う。八幡大神様の御神徳宣揚に努め、祖先より受け継ぐ郷土の氏神信仰を後世に守り伝えていく決意を新たにしました」



災より一年がたち、記紀に示される大和心、大和魂を見直し、祖先より受け継ぐ祈りの柱をしつかりと立て心の復興を計ることも大切」と挨拶を行いました。



「第」とその抱負を述べられました。来賓祝辞にうつり、東京都神社庁平岩昌利庁長、全国氏子青年協議会鷹野尚志会長、東京都氏子青年協議会杉林公明会長がこもごも祝辞を述べられました。この後、来賓紹介・祝電披露の後、梅田責任役員の発声で万歳三唱を行い、式を閉じました。結成式に続き、午後1時より祝賀懇親会を開催。江戸消防記念会第九区七番組・八番組による御祝儀木遣りで会が開かれ、先ず五本木責



氏子青年会役員・会員氏名

会長	井川 邦夫	◆ 会員	久保雅弘
副会長	渡辺 明義		伊藤敏行
副会長	野口 弘行		小松透浩
副会長	末柄 孝二		毛塚晴規
常任理事	安達 章久		井上一郎
常任理事	小川 宗次郎		吉田 勉
常任理事	根岸 隆之		小原克久
常任理事	星野 俊和		山口真弥
常任理事	米山 晃央		小林保志
監事	山崎 政義		鈴木健介
監事	内山 昌孝		穴澤浩一
理事	大窟 一義		堀正和
理事	野口 勝昭		西梶康男
理事	今岡 克大		高間 明人
理事	佐久間 靖公		浮須 真也
理事	松村 雅通		鈴木 則正
理事	金澤 貴之		奥村 輝夫
理事	平野 正男		岩田 泰太郎
理事	柏 元輝		黒柳 光男
理事	加藤 準		真垣 隆造
理事	細野 哲史		片岡 恵太
理事	芦原 康介		花形 明利
事務局長	提箸 照之		土屋 紀彦
			田中 裕太郎

氏子青年会新規会員登録集中

社務所までお問い合わせ下さい。

杜の話題

天皇陛下御病氣平癒祈願祭

天皇陛下の御病氣平癒祈願祭が2月15日、宮司以下祭員奉仕により中祭式により斎行されました。

天皇陛下には狭心症と診断され、2月18日に手術を受けられる事となったことから御病氣平癒祈願祭を斎行。併せて月次祭と東日本大震災鎮災復興祈願が奉仕されました。

また翌日より毎朝御日供祭に合わせ平癒祈願を斎行。境内には天皇陛下御不例御見舞記帳所が設けられ、記帳頂いた462名の署名は神社本庁を通じ宮内庁に提出されました。

そしてご退院後の3月23日には、天皇陛下御病氣平癒奉告祭を斎行し、ご公務のご復帰を大前にご奉告申し上げました。



東日本大震災復興祈願祭

3月11日の東日本大震災より一年。当宮では3月15日午前、東日本大震災復興祈願祭を宮司以下祭員奉仕により斎行、併せて月次祭を奉仕しました。復興祈願祭では宮司祝詞奏上、神楽「浦安舞」奉奏に続き、宮司以下祭員、参列員全員で大祓詞を奉唱、犠牲となられた方々の慰霊と鎮魂と共に、一日も早い復興を祈願致しました。

また震災当日の11日、天皇皇后陛下のお出ましのもと国立劇場で東日本大震災追悼式が催されましたが、当宮では御日供祭朝拝行事に職員全員で大祓詞三巻を奏上、震災発生の午後2時46分には境内のご参拝の方々と共に黙祷を捧げました。この前日の10日には神職の青年団体である神道青年全国協議会が岩手県釜石市の根浜海岸で「東日本大震災物故者慰霊祭」を斎行しましたが、当宮より提箸権欄宜が参列しました。



当宮では震災発生直後の昨年3月20日と9月1日、鎮災復興祈願祭を斎行、また毎朝御日供祭でも復興祈願を行っております。

紀元祭並榊原神宮遙拝

2月11日は紀元節。この日は初代神武天皇が大和の榊原の宮に即位されたのが建国の日です。当宮ではこの日午前、宮司以下祭員奉仕により先ず社殿にて紀元祭を斎行、皇紀二六七二年の平安を祈りました。つづいて清涼殿二階「蓬萊の間」にて榊原神宮遙拝を斎行、宮司遙拝詞奏上に

つづき参列者全員で紀元節の歌を斉唱。聖寿の萬歳を声高らかに奉唱して神武肇国をお祝い申し上げました。



節分祭・初午祭同日に斎行

2月3日は節分。節分とは本来、季節の変わり目である立春・立夏・立秋・立冬の前日を指しますが、特に立春前日は一年の季節の細かな節目として設けられた二十四節気の起点が節分とされるようになりました。当宮でも2月3日午前10時より

新春社頭往来

1月1日	立正佼成会理事長	渡邊恭位氏他
1月2日	五摂家一條家当主	一條實昭氏
1月2日	学習院女子大学教授	江口泰広氏
小笠原流宗家	小笠原清忠氏	
明治神宮権宮司	男成洋三氏	
(明治神宮崇敬会理事長)		
1月6日	杉並税務署長	安部文雄氏
1月7日	自由民主党幹事長	石原伸晃氏
1月9日	東京都議会議員	小宮あんり氏
1月10日	サミット株式会社社長	田尻一氏
大國魂神社宮司	猿渡昌盛氏	
高千穂学園理事長	藤井耐氏	
1月16日	東京大神宮宮司	松山文彦氏
1月26日	杉並消防署長	海老原邦雄氏
1月29日	香道志野流家元	蜂谷宗玄氏
1月31日	竹駒神社宮司	千葉博男氏
國學院大学院院友経済会会長	池田將弘氏	
2月16日	五友会会長	山崎真氏
2月26日	東京都神社庁長	平岩昌利氏
全国氏子青年協議会会長	鷹野尚志氏	
東京都氏子青年協議会会長	杉林公明氏	

毎月・お朔日参りを致しましょう

（ついでに）

毎月1日 朔旦祭（どなたでもご自由に）
毎月15日 月次祭（ご参列出来ます。）

節分祭を齋行、古式に則り桃の弓、葦の矢で悪疫追儺神事を奉仕。ついで社殿前で豆撒き神事が執り行われ、鬼に扮した大宮幼稚園児や参拝の方々が豆を受けておられました。



また今年の2月3日は丁度2月初めの午の日と重なり、節分祭につき午後1時よりは境内の大宮稲荷神社で**初午祭**が斎行されました。真新しい朱色の初午幟り百数十本が翻る中、五穀豊穡・商売繁盛・家内安全が祈られました。

新春伊勢初詣旅行

新春恒例の伊勢神宮初詣旅行が1月27日より29日の2泊3日で行われ、今年の古事記二千三百年にゆかりの淡路島や伏見稲荷大社を訪れました。

一行41名は先ず新幹線、近鉄利用で伊勢へ。豊受大神宮特別参拝後、皇大神宮に進み御垣内特別参拝と太々神楽奉納を行い、鳥羽に宿泊。



翌28日は先ず恵比寿さまの総本社・西宮神社に参拝後、世界最長の吊橋「明石海峡大橋」を渡り淡路島の洲本温泉に宿泊。最終日は古事記国生み神話の淡路国一宮・伊弉諾神宮を参拝後、京都に向かい、御鎮座一千三百年で賑わう稲荷総本宮の伏見稲荷大社を参拝して帰京しました。

国旗のある自由画コンクール金賞

今年の(社)国旗協会主催の「国旗のある自由画コンクール」に当園年長組の園児らが応募し、きく組の新井智香さんが明治神宮崇敬会理事長賞を受賞致しました。新井さんの作品は勤労感謝の日に幼稚園玄関に日の丸が掲げられた風景を描いたものです。



また、初天神奉祝と国旗制定記念日の1月27日を記念して、神門内右翼廊にて園児画展を開催し、この入賞作を始め34点の作品が展示されました。



巫女のための神宮研修

神道青年全国協議会主催による「巫女のための神宮研修」が2月23日・24日の両日、神宮にて開催されました。今回の研修は『伊勢の神宮に“こころ”を学ぶ』をテーマに開かれたもの。全国神社より69名の巫女が受講、当宮より山本・上林両巫女が参加しました。

研修では内宮・外宮などの参拝や、神宮のご由緒・舞女の奉仕、式年遷宮の意義などの講義が行われ、参加者は清らかな奉仕の心構えを再確認しました。



禮典研究會例会開催

去る3月7日、禮典研究會の例会が会員42名の参加のもと、当宮にて開催されました。

例会继续き、國學院大學教授岡田莊司氏による講演が行われ、社殿にて参拝の後、記念撮影。清涼殿に於いて、懇親会が催され、賑やかなひとときを過ごされました。



WCRP日本青年部会

3月31日、当宮に於いてWCRP日本青年部会の幹事会・総会・学習会が開催されました。



幹事会に続き、21名が社殿にて正式参拝。次いで総会、また「東日本大震災における宗教者の役割」と題し学習会が行われました。

◆役員総代就退任報告

【就任】

責任役員(方南南) 内山 誠
総代(方南南) 吉間 武彦
(各通4月1日付・但し任期は平成26年3月31日迄とす)

【退任】

責任役員(方南南) 大塚 喜一
(平成24年3月31日付)

お朔旦参り「月参り御幣守護」を授与

当宮では古くより朔旦(ひたち)十五日に月参りをされる参拝者の方々が多く、こうした方々に年間を通じて八幡大神様のご神威をお受け頂こうと、毎月1日の朔旦祭に合わせお朔旦参り「月参り御幣守護」の祈禱を奉仕しております。

大宮八幡宮の杜 春から夏へ

第9回 大宮八幡宮の杜 薪能

第9回を数える
大宮八幡宮の杜
薪能が5月12日
(土)午後6時か
らNPO杉並で能
楽を楽しむ会(田
木千城夫会長)主
催、杉並区教育委
員会の後援により
当宮特設舞台で開
催されます。



先ず火鑽神事が行われ、淨火が
篝火に点されてのち、観世流野村
四郎氏ら一門により舞囃子「小袖會
我」、狂言「鬼瓦」、能「藤戸」の
各一番が奉納され、幽玄の世界が青
葉若葉の神域に現出されます。
入場には陪観券が必要となります。
詳細は社務所にお問い合わせ下さい。

第13回 裏千家献茶式

第13回茶道裏
千家献茶式が5月
19日斎行されま
す。当日午前10時
より祭典を奉仕、
第16代お家元裏千
家今日庵千宗室宗
匠直々のご奉仕で



濃茶、薄茶が大前に献じられます。境
内では淡交会東京第六西支部の担当
主催で奉賛添釜茶会が催されます。
また大宮幼稚園では幼稚園茶席も行
われ、園児のお手前が披露されます。

水無月 夏越の大祓

「水無月の夏越しの祓する人は
ちとせの命のぶといふなり」

恒例の夏越の大祓が6月30日午後
4時より神門前参道広場で斎行され
ます。大祓は我々が知らぬ間に犯した
罪や心身に受けた穢
れを祓い清める神事
で、古来より国家行
事として6月と12月
の晦日に行われて来
ました。

神事では神職が
大祓詞を宣読した
あと、人の形をした
形代で全身を撫で、
息を三度吹きかけて
心身の罪穢を移し、茅の輪を左右左
と三回くぐって祓い清めを行います。



おほはらえごとは 大祓詞書写会

当宮の教化活動の一環として、り
んどう会と共催の大宮八幡塾「水無
月書写会」(大祓詞書写会)が、夏
越の大祓に併せ、今年も6月16日よ
り24日までの9日間開催されます。
この書写会は「大祓詞」(約900字)



7月1日より15日の間、当宮では第
14回「平安の七夕乞巧奠飾り」を開
催します。技芸上達を願う乞巧奠は
平安の世より宮中を中心に広く行わ
れた行事。期間中、清涼殿ロビーに乞
巧奠飾りを展示、また神門前に梶の葉
や五色の布を付けた平成の七夕「大宮
八幡乞巧潜り」が設けられます。
七夕の7日の午後6時には『七夕
の神遊び・技芸上達祈願祭』を奉仕。
ついで参列の方々
とともに乞巧潜
りを三度潜る大
宮八幡乞巧潜り
神事を斎行。また
8日と15日の日
曜午後5時より
乞巧奠飾り前に
て「雅楽の夕べ」
が催されます。

平安の雅第14回乞巧奠飾りと 大宮八幡乞巧潜り神事

を書写し、奉納することにより大神
様のご神徳を戴こうというもの。
祭典や祈願祭のお祓いの際に神
職が奏上する「祓詞」(約90字)や、
ひらがなのみの簡単なお祓いの言葉
もありますので、ご参拝旁々、親子
連れでお気軽に「ご参加頂けま
す。
尚、浄書された大祓詞は、大祓に
引き続き行われる奉納奉告祈願祭に
て神前に納められます。期間中、午
前9時〜午後3時まで茶室「神泉
亭」にて随時受付をしております。

安産の願いを籠めた絵馬を奉納



戌の日詣りは
子育八幡さまの当宮で

安産祈願のご祈禱を！
※戌の日以外にも随時受け付けております

「祈願の方には安産腹帯(岩田帯)と兵に、へその
緒(結ばれたお母様とお子様)が健康に、出産の時を
迎えますように」の願いが込められた「母子緒守」
と「安産祈願絵馬」を特別に授与しております。

戌の日早見表

(平成24年5月〜9月)

9月	8月	7月	6月	5月
10日(月)	5日(日)	12日(木)	6日(水)	1日(火)
22日(土)	17日(金)	24日(火)	18日(月)	13日(日)
	29日(水)		30日(土)	25日(金)

は大安の日です

乞巧潜りに併せて神門には大笹竹が立てられ、用意の短冊に願いを込め、自由に結んで頂いております。また授与所では乞巧守りが授与されます。

多摩清水社例祭

これからの盛夏の時期を迎え、水神様の御神徳を称え、生命の源の水の恵みに感謝する**多摩清水社例祭**が水の日の8月1日に斎行されます。多摩清水社は「靈の清水」とも詠まれ、御神水が湧き出る水神様のお社です。例祭は本社朔旦祭に引き続き奉仕されます。

第11回神社スカウト全国大会

来る8月7日～10日の4日間伊勢の県営総合競技場及びその周辺を舞台として、第11回神社スカウト全国大会が行われます。

北は北海道、南は九州まで二千人を超えるスカウト達が、これまでに習得した能力や技能を発揮し、友情と絆を深め合い、日本人としての誇りを培う場として開催されます。

また、当宮

が育成母体のBS杉並13団とCS東京62団も参加を予定しております。



納涼大宮天神まつり 杜のひびき in おおみや

当宮夏の風物詩「第12回納涼大宮天神まつり」が天神様のご縁日7月25日の夕刻、境内大宮天満宮で行われます。



先ず幼稚園や小中学校、また崇敬者より奉納の書画行燈二百基に灯りが点され、大宮天神祭を斎行。子供たちにより「あかり神輿」が元気に担がれます。



次いで境内では「杜のひびき in おおみや（時間を外した日の祭事）」として和太鼓の奉納演奏が行われ、また「子供のミニ花火の集い」も催され、境内は夕涼みの親子連れの皆さんで賑わいます。

あかり神輿を元氣良く！

納涼大宮天神まつりに、「あかり神輿」の巡幸を行っております。ご参加のお子様には、お菓子のプレゼントもあり、飛び入りの参加も出来ますので、どうぞ皆様奮ってお参り下さい。



第29回戦没者慰霊祭

第29回大宮八幡宮戦没者慰霊祭が終戦の日の8月15日正午より、同実行委員会主催により斎行され、氏子出身戦没者329柱のご英霊のみたまなごめの祭典が奉仕されます。

りんどう会だより

当宮敬神婦人会（りんどう会）では1月15日、古札焼納祭（どんど焼き）にあわせ恒例の「厄除ぜんざい」授与奉仕を行いました。ご神火を頂いて作られる、この厄除ぜんざい。今年一年の無病息災を願って、多くの参拝者の皆様が無病息災で温かいぜんざいに舌鼓を打っていました。



2月には新年懇親会が開催され、会員らはご社殿での奉告参拝の後、南京玉すだれや手品、プレゼント交換等楽しいひとときを過ごしました。また4月28日には、春の大祭を前に御垣内の清掃奉仕が行われます。6月には総会や、「水無月の書写会」が開催されます。

当会では随時会員を募集しておりますので、ご入会希望の方はお気軽に事務局（社務所）へお申し出下さい。

春の大祭後の主な行事

御嶽榛名神社例祭	5月16日
第33回大宮まつき展	5月下旬～6月上旬
大祓詞書写会	6月16日～24日
夏越の大祓・茅の輪くぐり	6月30日
第14回乞巧奠飾り	7月1日～15日
大宮八幡乞巧潜り神事	7月1日～15日
七夕の神遊び（段上達祈願祭）	7月7日
雅楽の夕べ（雅楽と神楽舞）	7月8日・15日
第12回納涼大宮天神祭の書画行燈掲出	7月25日
第12回杜のひびき in おおみや（和太鼓奏）	7月25日
多摩清水社例祭（水神祭）	8月1日
第29回戦没者慰霊祭	8月15日
第12回十五夜の神遊び	9月30日

大宮八幡祭り(秋の大祭) 祭典日程のお知らせ

本年度の大宮八幡祭り（秋の大祭）は左記の日程により斎行されます。

*神輿神霊入・若宮八幡神社並

白幡宮例祭は9月14日(金)に斎行する

*宵宮祭は9月15日(土)に斎行する

*例祭・氏子奉幣祭、

神輿合同宮入は9月16日(日)に斎行する

*神輿神霊返は9月17日(祝)に斎行する

初宮詣芳名

(平成23年11月23日〜平成24年3月25日)

お子様のお健やかな成長をお祈り致します

作島研一郎 竹尾航汰 六井誠明 野村芽以
加藤公理 佐々木陽香 佐嶋祐子和 村上太一
森田莉菜 平尾朋己 雨宮匠吾 本間幸惺
瀬賀奈子 大平拓海 實方梨乃 藤尾和奏
足立梨緒 菊池麻衣 嶋津奏祐 富山陽向
村上颯 藤田紘誓 佐々木亮爾 熊部翔
長谷川悠斗 高橋思樹 神登ひなた 鈴木絢音
深井晃郎 政岡葉子 西川晴乃 沼崎のの
小泉真央 村越陸空 榎本倅大 鎌田晃成
小澤未来 弘島成 菅野康佑 豊田鈴子
萩原耀悠 京榮咲希 片山杷花 浅井真希
長瀬瑛仁 竹内悠真 佐々野徠 筒井友吉朗
鈴木琉生 湯川直紀 山田慎之助 稲田誠
山本直花 桑名一花 澤崎美羽 鈴木寛大
池田和世 ナッシュ 河合咲 中島一真
小島悠 里吉花 野中はな 中川陸玖 河村優真
里吉花 野中はな 中川陸玖 河村優真
佐藤万哩 中尾日向 宮本奈南 牧田唯月
長濱知香 今雪季弥 宮本彩名 佐々木菜緒
岩田将太 渡部寛陸 川崎杜志之 吉田羽
白井結菜 須佐明里 岩波優衣香 中原大和
工藤珠里 大島務 谷垣友綺子 中原色葉
梅崎明菜 齋藤彩乃 佐々木健人 角田理一
山下真凛 飯村修己 大庭彩稀 川原和月
松本賢 加藤和人 花澤亮郎 野部翔大
星野遙 高橋一真 齋田悠晴 水野泰佑
大橋崇郎 越田晶絵 酒井智弘 上野愛佳
佐藤成 小林莉麻 大室東樹 北野心望
櫻河心 橋爪咲希 小川裕也 井上温心
武野日和 伊藤芽叶 石井伽旺 水野文香
藤井幹太 村嶋優 長谷川博紀 山本空
大内心結 加藤紗奈 網野美晴 高原明衣
白崎乃々 畠山いろは 中山明奏 市川永結多

藤井勇人 植蘭淳彦 石綿一惺 上山和音
松田晃太郎 國分杏莉 今井祐里 岸本治磨
篠田宇麒 林拓未 小野塚成成 稲垣総司
会田羽菜 川口輝 中澤松太 松井鈴
堀絢子 湯川知優 一倉優月 山本和圭乃
田中一輝 新瀧良太 加藤碧 秋田谷遙
増淵絢子 恩田修司 伊丹彩恵 榊原拓未
高橋暖 小林煌生 土肥美紗季 金子由依
佐伯一馬 羽田拓真 大中唯人 伴野舞衣
鶴島優子 齋藤瑠香 倉重洋紀 川上凛
内田頼登 嶋田梨莉 山崎晶心 中村優太
木村真悠子 竹田千愛 石原由里絵 板谷峻太
竹内結愛 尾田結音 木下結愛 山野井馨
島田昂汰 宮澤拓矢 河村陽菜 石川律
黒田陽生 梅田理人 松本勇人 ケネリー
高木将晴 佐藤颯太 仙崎啓介 亀田敏目
新妻柊力 三橋純乃 藤田一良 米屋心陽
伊藤泰司 並木紗也 依田隼夫 館野あかり
喜澤小春 山村結 肥後陽人 小西紅音
中野千里 吉田朋滋 海老澤心碧 松本和樹
天野稜也 今井和貴 山下倅史 齊藤玄
齋藤寛仁 近藤優衣 藤枝新 岡田真
佐久間菜乃 二上結莉 伊藤大菜 飯田侑樹
安達里帆 久保田珠 加賀屋友梨 青木龍之介
石渡心望 柳澤志保 志田美莉 阿部七柳
柳澤志保 志田美莉 泉友吉 師岡楓
義輪昇汰 田中いおり 合田隼 高橋唯人
杉田惇志 河崎芽依 富田拓夢 小川劉大
渡邊佑亮 宮本怜麻 大島陽斗 鈴木葵
青木風磨 上村郁乃 正富文翔 木村紗弥
中松美咲子 内藤由太 合田晴道 久住昌誠
波島城田香 砺波紗良 増田琉都 植村梨乃
山口礼朗 白井希依 青木煌羽 高橋凛
廣瀬悠磨 町田未来 西森かほ 宇津森彩愛
原野智翔 日野光咲 黒岩麗華 渡邊柚希
千綿琴充 岩波快 布川怜奈 佐藤勘汰
田嶋々花 竹内俊 岡本示悦 熊谷香凛

とんぐり通信 おかげやうちえん

大宮幼稚園卒園式

前日が雨模様でしたので天候が心配されていましたが、当日は雨も上がり第62回卒園式を無事に行う事が出来ました。



101名の子どもたちは緊張している様子もありました。が、きちんとした姿勢で臨む姿はとも立派に見えました。園長先生から「ありがとうござい」ます。」と堂々と卒園証書を頂く姿を見ながら、2年前・3年前の一人ひとりの様子が思い浮かび「帰りたい」と毎日泣いていた。「いたずらばかりしていたのに大きくなったな。」と幼稚園で過ごしたたくさんの日々が思い出されました。楽しくおしゃべりした事、ひとつの目標に向かってクラス全員で力を合わせて頑張った事、折り紙や制作を真剣に取り組んでいる姿やなわとびを一生懸命練習している姿、泣いていたりが困っている友だちがいたら優しく声をかけてあげる思いやりの気持ちなど、いろいろな経験をして心も身体も大きくなりました。

私にとって初めての卒園児なので、可愛い可愛い子どもたちが卒園してしまふのはとても寂しいですが、小学校でも幼稚園で学んだ事を生かし、自信を持っていろいろな事にチャレンジしていつまでも大宮の神様と私たちがみんなの事を応援している事を忘れないで下さい。みんなと過ごした3年間はとても楽しく、一生の宝物です。



献木・銅板奉納のお願い

ご社頭では春に芽吹く緑に人々の心の清らかさと心の潤いを願い、鎮守の杜の緑を守り育てようと、皆様方よりの献木のご協賛を承っております。

また、銅板に皆様のご芳名と願意をご記入頂きまして、ご奉納を併せてお願いしております。今後屋根の修繕等に利用させて頂き、皆様の祈りの籠もった銅板によって大神様のお住まいをお守り頂きます。

献木初穂料 一口二〇〇〇円
銅板初穂料 一口一〇〇〇円

※年中を通じて承っております

北梨乃 岡田悠良 小澤由芽 加藤未来
後藤茜 中村周友 木村結愛 尾上慎之介
池内慶士 大場龍興 坪井那由 秋葉大和
黒瀬まう 寶來壮太郎 柳陽茉莉 新保美咲
吉田優人 杉上拓斗 新野杏 藤川弥太郎
中野利紗 篠山通音 佐々彩乃 矢見比呂
小坂鈴羽 鍋谷あかり 片桐聡士 廣澤希乃羽
濱中玲奈 市村奈々 尾藤祐真 齊藤成春
大平慎之介 本多悠希 伊藤睦人 下島凜紗
巨明秀 安田颯杜 松下琉風 長瀬裕
塚田寛 北村駿乃介 篠原莉緒 栗原菜子
水戸部君 鈴木菜那子 大石郷太 出水南緒
三瓶承也 上杉美音 中元風斗 板橋映奈
神山大雅 河村泉 高田美空 山本梨乃
伊藤柚葵 渡邊早多 石橋侑奈 梅田陸麻
沼田駿希 前田みなも 工藤匠真 伊達照市
輪嶋彩歩 齊藤向希 古家海志 齊木颯
紺田平太 青山陽飛 椿咲翔 氣田龍之介
宮田和 山下純夢 日高翔太 小川琴音
寺田瑞史 小澤海晴 嵯峨結衣 伊藤銀雅
荒木大遙 五木本拓也 藤田結菜 武井千帆
伊藤凜 西尾和真 葉山彩 大塚倫太郎
佐野の珠 山田晴 遠藤聖歩 田中美羽
高田陽向 藤井汰緒 相澤祐 橋爪結
瀧口真優 佐久間玄太 重信宙希 加藤愛花
大庭颯太 八木麦帆 アリソン 若林奏汰
清水陽南乃 加藤晴貴 ペイヴィ 榎原日々来
酒井かのん 青木真陸 前田有理奈 伊藤美那
川原千和 市毛蒼亮 島袋結 倉澤冬馬
高橋湊 小林美沙吾 八尾温音 飯塚咲希
マルキン 藤田愛染 矢島聖羅 播磨美珠
眞紗 藤井柚羽奈 三神静 浅川華凛
磯田航 秋山裕菜 松原壮汰 長崎智哉
松尾優菜 長沼多朗 島田蒼 松浦紗英
米田帆花 大島芳登 高橋柚芭 福元心春
橋本東葉 細川兼心 駒田貴大 阿掛心太郎
渡辺白葉 若林亮生 飛田さくら 尾崎心知
間水百南珠 小高にこ 毛利泰清 岩村有紀子
前澤久遠 岩本奏汰 佐藤有悟 村山小菊

北條心愛 土井春樹 塩屋真奈果 弘田希
長瀬平 堀尾麻衣 宮嶋優衣 中村悠人
長瀬嘉土 酒井柚希 小山崎空 高主悠吾
澤田春日 川上裕代 細川希子 中嶋文人
雨宮絢 福佐仁 松浦茜 彌勒地倫也
平野真人 後藤慶斗 江川拓実 三輪丈瑠
黒崎權 小澤岳 小飯塚大希 竹田唯央
桑畑利桜 村上心音 飯島唯心 中山拓海
竹林友士 佐藤聖花 藤島瑚世 中山航希
廣田絢子 小倉美久 井坂壮佑 濱田りの
倉持孝史 水野柊 本間智翔 天野智裕
吉田旬佑 小林紗羅 東明木 米田薫子
牧野悠史 加藤莉乃 渡邊有莉花 須澤花音
田口裕誠 林芭奈 尚樹季緒 太田穂
小林拓史 横尾亮介 中村健光 鍋谷重沙
田中湧 和泉翔太 泰えみな 金納由弦
小原真志 中山将宏 菅田十紀人 花香沙弥
山川耀大 加藤九十九 市堰はるの 木太快人
落合和奏 加藤美緒愛 北條佑磨 小鼓真央
伊藤克真 藤井一歌 古林龍乃輔 上野絢香
永濱航 生田真太郎 國分遙稀 木林凜音
島津陽 多々良康朗 江沼零来 相澤さくら
村瀬杏 堀恭輔 長沼冬真 前沢里海
篠原渥太 小川武士 内山文花 鈴木友佳
佐々木領大 殿塚匠真 仲里碧莉 古川大雅
宮越歩 小笠原ひかり 新田将 河田大誠
高田悠真 河本愛生 岡林杏奈 手島十文
山口太郎 甲斐鏡二朗 大西珠理愛 佐藤亜子
吉野眺星 関谷宇瑠波 本間創貴 白上英之介
鳥居直史 宮島湊 海野匠吾 横田悠人
石田陽己 大江悠翔 梅村元 関難詩
石田勇人 佐藤龍介 木村心敬 平田春乃
石田想真 小山晃直 岡村果歩
佐野世風 高橋慎翔 北洞咲
大場紗季 佐藤詩郎 福井優吉
清水彩花 伊藤七海 元女愛麗
秋田菜奈 久保千和子 大橋品仁
日根野颯終 小林未来 秋山凜
浅野柊牙 松尾萌桃 興津ひなの

神前結婚式のご案内

神社で結婚する——これは特別な意味を持ちます。『古事記』『日本書紀』の神話には、日本の島々や、多くの神々をお産みになった伊弉諾尊と伊弉冉尊の結婚の儀の事が書かれています。これが日本の結婚式の始まりなのです。



神前結婚式の心は「感謝」にあります。今まで生きてきた中で、育てて下さったご両親、支えて頂いた友人、親戚、近所の方々、そしてこの地に生まれ、生かされているすべての恩恵の大本の神々への感謝。神々の前で夫婦の契りを結び、感謝の心を伝え合うこと。神前結婚式は「感謝」からはじまる新たな人生のスタートなのです。

感謝の心で
夫婦の永遠の愛を
神々に誓う

結婚式挙式者芳名 (敬称略)

平成24年1月1日〜平成24年3月31日
横山俊之・満 徳光康平・麻由子
安達隆幸・直子 西山哲広・小百合
荒谷英二・歩音 宮一紀・香菜子

緑豊かな都心の杜。
感動の瞬間

初宮詣集宴会

衣装・美容着付・写真・初宮費膳(ご会食)など承ります。

清涼殿

03(3312)7515

七五三詣

七五三衣裳展示会7月7日より

毎日朝10時〜夕方5時まで開催

七五三年齢表

七歳 女児 平成 18 年生
五歳 男児 平成 20 年生
三歳 男・女児 平成 22 年生

※生まれ年と年齢は数え年によるものです。満年齢でお受け頂いても差し支えございません。

わかば祭り(春の大祭) 5月3日~5日

わかば祭り 第一日ノ儀 こどもの祭り(稚児健康祈願祭)〔3日〕
稚児行列には、プラスバンド・スカウト・猿田彦・役員総代・こども太鼓山車など多くの供奉が



猿田彦の先導に、役員・総代供奉が続く



春麗らかな参道を行く



帰着後 社殿前にて修祓を受け参拝

わかば祭り 第二日ノ儀・若葉 in おおみやコンサート、植樹祭〔4日〕



第二日ノ儀(筆式者参列)



若葉 in おおみや奉納演奏



植樹祭 苗木配布先着200名

わかば祭り 当日祭(尚武祭)〔5日〕



宮司以下祭員ら社殿へと参進



国家安泰・五穀豊穰・氏子地区の繁栄を祈る



大宮幼稚園児、神前に朝日子舞を奉納



古武道武技奉納〔3日〕



杉並太鼓奉納演奏〔3日〕



裏千家野点茶会〔5日〕

大 宮 第93号
平成24年 春の大祭号
平成24年5月1日発行
大宮八幡宮社務所

〒168-8570
東京都杉並区大宮2-3-1
電話 (3311)0105 FAX(3318)6100
Mail: info@ohmiya-hachimangu.or.jp



方南エイサー踊り〔5日〕



雅太鼓奉納演奏〔5日〕

境内では、植木市他連日神賑行事が奉納されています〔3日~5日〕